

研究分野のキーワード：教育工学，メディア開発，教員養成，教材開発，国際交流

研究紹介

1985年だったと思います。私は、愛知教育大の学生でした。

ある授業で、アメリカで研究されているコンピュータのビデオを観る機会がありました。そこでは、工員と思しき人が、部品を前に悩んでいるようでした。ところが彼は、おもむろに脇に置かれたタブレットコンピュータのようなものを取ると、画面をタッチしました。すると部品の説明が、タブレットに動画で説明され、表示されました。おおっ！

もちろんこのビデオは、当時の研究内容のデモンストレーションで、実際にこういう工員さんがいた訳でも、まだタブレットコンピュータもありません。

でも私は、激しく衝撃を受けました。

当時はまだパソコンも出始めで、写真すら表示することはできず、よって画面で動画が動くことはなく、音も「ピッ」というようなものしか出せないような状況だったからです。

私は、未来の教育は、コンピュータは、きつこうなる！と確信しました。

そして私は、コンピュータと教育をテーマに、研究をしたいと思うようになりました。その気持ちは、あの日以来、ずっと変わっていません。いや、ますます大きくなっています。

もし、今このビデオを見ても、高校生の皆さんは、あまり衝撃はないと思います。なぜなら、このビデオに示されたデモは、ほとんど現実になってきたからです。

私の研究テーマは、概ね3つに分けることができます。

1つは、コンピュータやインターネットを、教育にどう活用するかということです。ICT(Information Communication Technology)と呼ばれるものです。いろいろなことをやっていますが、主なものとしては、Blogの活用の他、2004年から、eラーニングシステムの授業への活用を研究しています。また最近は、SNSの活用に注目しています。

2つめは、情報メディアと人々との関係についてのものです。1つめよりもっと基礎的な研究になります。現実を支えるためには、こうした基礎的な部分は重要だと思っています。私は、特に子どもたちや教員養成の学生たちとの関係に注目しています。実は、私よりも、私と一緒にやってくれている先生方が、多くの成果を出しておられます。

最後が、地域や海外との連携に関するものです。2004年から、地域の高等学校と連携して学生や私が授業を行う実践を行っています。また2005年から、海外の協定校と連携して、やはり授業を中心とした実践を行っています。

これら3つは、ばらばらにあるのではなく、多くの方と一緒に、あるいは協力を得ながら、有機的に結びついて行っています。

すべての研究は、子どもたちの未来がより良いものであるように、と願って行っています。